

研究会・シンポジウム報告

2016年8月8日(月) 定例研究会報告

テーマ： 漁業経済とその周辺・関連事項に関する各種研究の報告

報告者： 進士淳平、Hirotsugu Uchida、小川健(本所所員)、東田啓作

その他： 主催) 社研研究助成グループ助成A・野口グループ

共催) TEMF 研究会(近代経済学・経営学的漁業経済研究会) 第11回

(代表：松井隆宏・三重大学・准教授)

時間： 13:00~18:30

場所： 神田校舎1号館4階ゼミ46教室

参加者数：約20名

報告内容概略：

進士淳平は現在海外留学中のため、Skypeを繋いでの報告となった。熱帯魚ブリーダーを想定した通信販売に関する思考パターンを再現した研究で、水産業における経営を広くとらえる中で重要な知見を与えた。その固有なモデル設定に対し、様々な知見からのモデル改良などが提言された。

Hirotsugu Uchidaは現在、環境保護団体のEDFと連携し、水産資源の保護と持続的な利用に関する世界的な実証研究の日本側取り纏めを行っている。この研究会ではその紹介と、特に鍵となるUpside Modelに関する研究紹介を行った。

小川健は一般均衡の貿易理論を利用し、日中の鰻(や津軽海峡の鮪など)を例に、国際的に資源の出所が共有された再生可能資源に於いても産地による消費者の選好の異質性があるのではとする観点からの、産業内貿易を組み込んだ研究の重要性を報告した。あくまで中間報告の段階であったため、現状では水産業としての特有性や目指す方向性に関し疑問符が付いた形となり、継続的な研究が求められることとなる。

東田啓作は、共有された水産資源の中で特にpooling systemと呼ばれる仕組みの自発的な選択決定に関し、資源管理と漁獲量決定の観点から知見を与える研究の報告を行った。

全体として、報告話題・分野は多岐に上っている。また、集まった参加者も多様な分野から構成されたことから、将来的な共同研究の可能性なども非公式に話し合った。

記：専修大学経済学部・小川健(OGAWA, Takeshi)